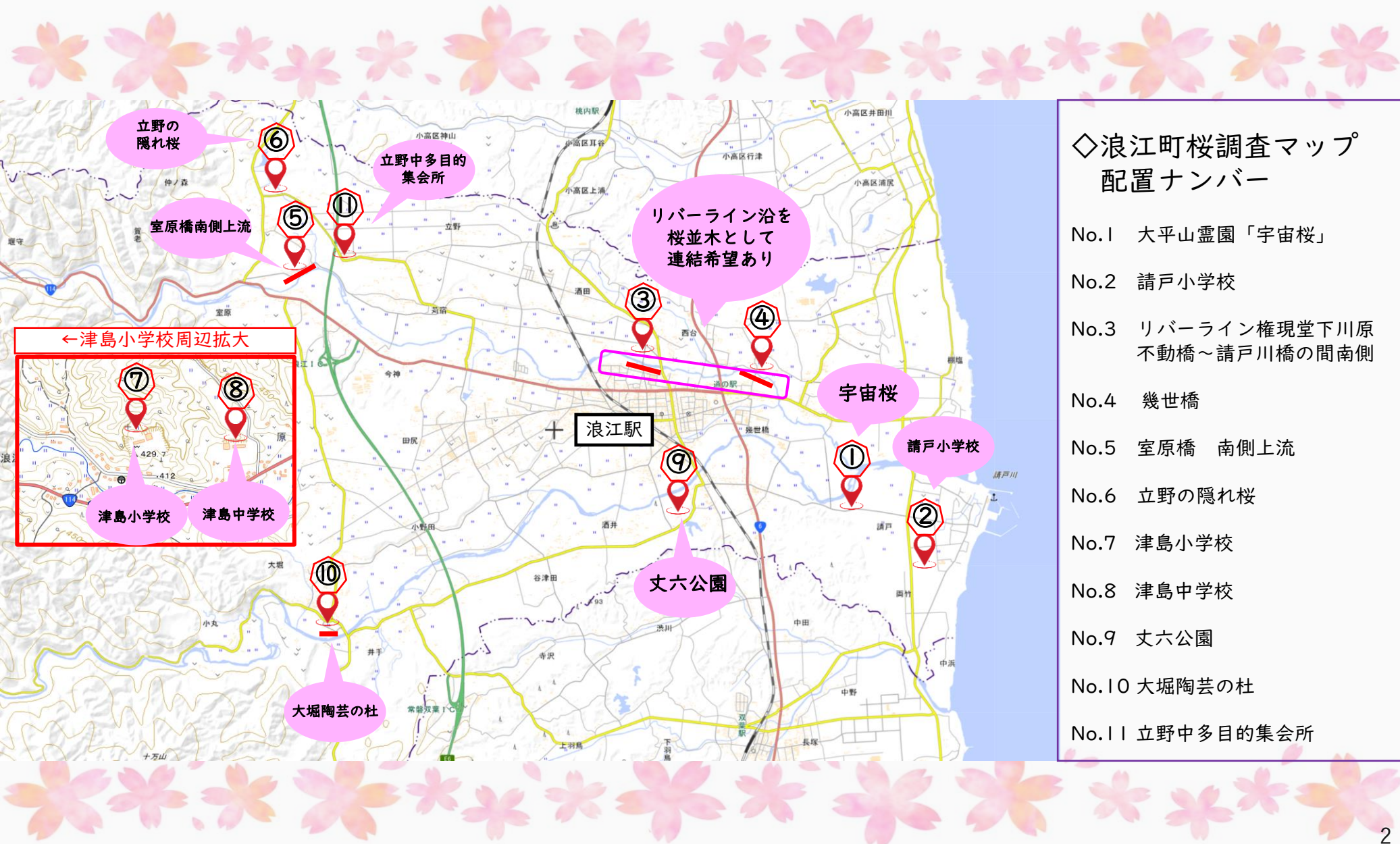


浪江町桜レポート

調査日：令和6年6月20日～21日

浪江町桜調査マップ



No. 1 大平山霊園「宇宙桜」

<調査結果>

日本三大桜の一つ「山高神代桜」の種子由来ということで、種子親♀はエドヒガンということとなる。樹皮の様子は、まだ若木であるためエドヒガンに独特な特徴は確認出来なかった。

花粉親が不明であるため、いわゆる雑種か、広義のエドヒガン（エドヒガン同士の交配）と考えられる。2018年に植栽され、6年が経過していること、サクラは種子の発芽に1～2年を要することを踏まえるとまだ樹齢は10年未満と考えられる。開花の有無および花器の形態を確認したかったが、同行の関係者の中に、それを知るものはなかった。開花したことの証拠となる果実を探してみたが、見出すことができず、今季開花したかどうかは不明。

太平洋を望む高台に植栽されていることから、「浜風」の影響、風害・塩害が懸念されるが、本樹に関しては、その影響によるものと考えられる深刻な徴候は認められなかった。ただ樹形からわかるように、風下（海と反対側）の枝がより旺盛であることから、海からの風の影響を受けているものと考えられる。

侵入・立ち入りを防ぐためのフェンスおよび樹下の雑草繁茂を防ぐための防草シートの設置など、よく手入れされていた。今後、さらに樹勢をよくしてゆくために、施肥を行うこと、またその種類や時期について助言した（東京農大・矢野先生へ）。

<調査概要>

No.	場所	位置	桜の種類	本数	推定樹齢	管理状況	病気の種類と発生状況	推奨される対処法	高所作業車の要不要	管理者
1	請戸	大平山霊園 宇宙桜	エドヒガン	1本	10年	柵で囲っている 枝はすいてあり、 手が施されている	病気なし 病気には強いが、 風による痛みが激しい	対策は特になし 大きくするのみ	不要	浪江町

No. 1 大平山霊園「宇宙桜」

<参考写真>



写真1 請戸宇宙桜に関する説明プレート



写真2 請戸宇宙桜外観
サクラは自家不和合性を有すると考えられるため
山高神代桜の種が由来であるが、雑種である可能性が高い

No. 2 請戸小学校&請戸小学校脇

<調査結果>

令和5年11月19日に植樹されたジンダイアケボノ（神代曙）とタマユメザクラ（玉夢桜）の2品種が植栽されていた。ジンダイアケボノは、公益財団法人日本花の会がソメイヨシノにかわるサクラ品種として「サクラ類てんぐ巣病」にかかりにくいということで、推奨配布を進めている品種である。

<https://www.hananokai.or.jp/sakura-zukan/jindai-akebono/>

植栽されたジンダイアケボノは5年程度かと思われたが、現在主幹・主枝からの葉の展開が認められず、状態が良いとはいえなかった。全ての植栽個体に「ひこばえ」が僅かにみられ、「胴吹き」の葉が展開していることから、生きてると判断されるものの、今後の回復の見込みは難しいと判断した。同行した弘前公園元桜守小林氏も、同様の見解で、一年様子を観て、植え替えてはどうかとの意見があった。

タマユメザクラは、小林氏も本多准教授も聞いたことのない品種であった。苗木は、ジンダイアケボノよりも若木と判断され、3年くらいと推察した盛り土をし植栽後に、敷き藁にて乾燥を防ぐ対策をしたものと考えられるが、もう一种植栽されていたタマユメザクラの葉先が黄変し、葉色が薄いことを考えると、水分の不足が主要因と考えられ、加えて養分の不足も懸念された。

* 標識に記されている「学名」の標記が、正式にはイタリック体でなされるべきであるが通常のローマン体になっている。

<調査概要>

No.	場所	位置	桜の種類	本数	推定樹齢	管理状況	病気の種類と発生状況	推奨される対処法	高所作業車の要不要	管理者
2	請戸小学校	請戸小学校脇	ジンダイアケボノ	2本	5年程度	なんとか生きている枯れているもの多数	冬の風、冬の寒さに体制がないことから、	春に植えた方が良	不要	浪江町
			タマユメザクラ	3本		植樹後の手当てがされていない	葉がなく弱っている状態	水不足		
			雑種桜	2本		自生したものにはサクランボがある				

No. 2 請戸小学校&請戸小学校脇

<参考写真>



写真3 校庭脇に植樹されたジンダイアケボノ
水分が不足気味で樹勢が弱い



写真4 校庭脇に植樹されたタマユメザクラ
潮風と強風の影響?により葉の一部が枯れている



写真5 校舎脇に自生したさくら

<参考写真・補足>



写真6

後ほど改めてこの標識をみて、このタマユメザクラを調べてみると、宮城県農業高校で育成されたオリジナル品種であることがわかった。

https://school.js88.com/scl_h/school-news/yokikoto?news=1775

<https://www.kk-tohoku.or.jp/kkoshien/miyano20th.pdf>

芳香を有する品種ということで、サクラ品種で花が芳香を有するのは稀少といえ、今後管理・育成により、開花に至ることを願い、望む。



写真7

定かではないが、聞き取りやその大きさ、主幹の太さから、実生由来ではなく、苗木＝個体が流れ着いて定着したものと考えられる。多くはないが、果実を確認したことから今春開花していたものと判断される。

<調査結果>

株式会社小黒設備工業取締役会長小黒氏の案内・解説により、現地を視察。

①下流側 幾世橋付近

植栽から75年、胸高直径（DBH）＝63cmで、樹高は推定で15m。絆さくらの会にて管理されており、かつて、一度いわき市の樹木医指導の下で、サクラ管理にとりかかった経緯あり。その後は、独自に有志らで少しずつ高所作業車も用いながら、大々的な管理を遂行してきたとのこと。画像からもわかるように、植栽から50年強を経て、樹間が混みあってきている様子。

そのため、一部の枝では、葉が小さい＝光不足によるもの箇所が散見された。枯れ枝の撤去やサクラ類てんぐ巣病枝の除去およびその切り方については、概ね良好との小林氏の評価。切り口に、塗布剤は塗布しておいた方が望ましい。一方で、上方に伸びる枝を、残してきたため樹高が高くなってきた印象。今後に向けて、混み合った枝の除去に加え、主幹を交替・整えることで、樹高を低くしてゆく管理も試みてはどうか。

②上流側 道の駅付近

枯れ枝の撤去は、今季の開花前から少しずつ遂行。課題となるてんぐ巣病枝の除去については、今後の課題。東京農大および本学生も参加しての、整枝剪定（サクラ類てんぐ巣病枝除去も含め）を行うとすれば、やはりこの箇所を皮切りに検討してはどうか（東農大矢野先生と）。例年11月に作業を行っているとのことなので今後協議調整必要。

<調査概要>

No.	場所	位置	桜の種類	本数	推定樹齢	管理状況	病気の種類と発生状況	推奨される対処法	高所作業車の要不要	管理者
3	リバーライン	権現堂下川原 不動橋～請戸 川橋の間南側	ソメイヨシノ	55本	75年	状態は良いわけでは ないが手入れあり 密の状態 他のエリアとつなげ ていく計画	枯れ枝多い（日当た りの問題） 穿孔褐斑病 てんぐ巣病	枯れ枝を落とす 新たに植樹するの はジンダイアケボ ノ等のてんぐ巣病 に強いもの推奨	必要 15m以上	絆さくらの会

No.	場所	位置	桜の種類	本数	推定樹齢	管理状況	病気の種類と発生状況	推奨される対処法	高所作業車の要不要	管理者
4	幾世橋	幾世橋藪内 満開橋～幾内橋 の間の南側	ソメイヨシノ	38本	60～ 70年	枯れ枝多い てんぐ巣病多い 密の状態	てんぐ巣病 苔類 樹皮剥がれ	てんぐ巣病を取り除く 冬に落としてはどうか 枯れ枝を落とすこと 木の高さを抑えるよう な工夫必要	必要 15m	絆さくらの会

No. 3 リバーライン 権現堂下川原 不動橋～請戸川橋の間南側

<参考写真>



写真8 リバーライン手前は手入れがされている



写真10 樹木の間隔は広めであるが、一部密な区間あり



写真9
リバーライン
標識



写真11 樹木の間隔は広めであるが、一部密な区間あり

No. 3 リバーライン 権現堂下川原 不動橋～請戸川橋の間南側
No. 4 幾世橋 (写真15)

<参考写真>



写真12 樹木の間隔が狭い状況



写真14 枯れ枝が少々あるソメイヨシノ

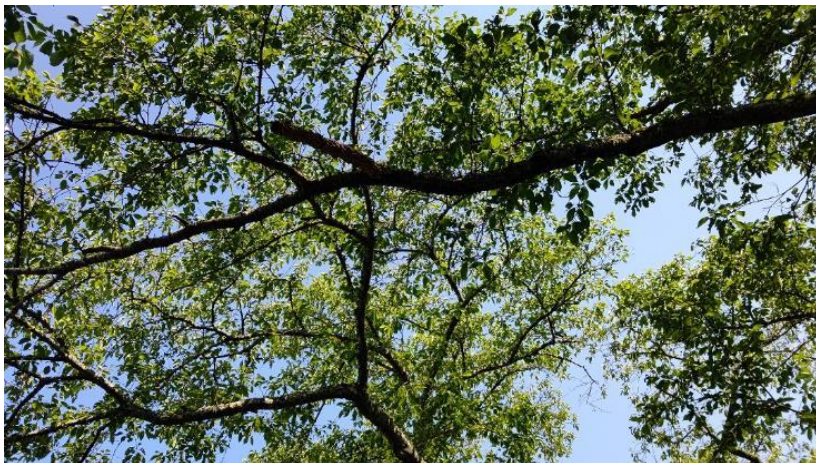


写真13 葉が多く生命力はある

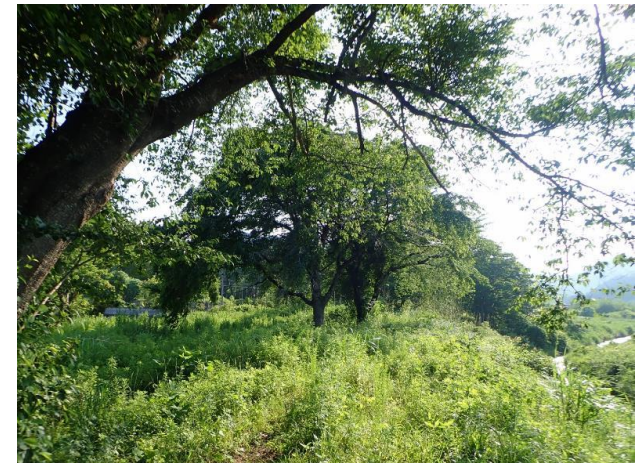


写真15 枯れ枝が少々あるソメイヨシノ

<調査結果>

下草、クズなどの蔓植物加えてハリエンジュ（通称：ニセアカシア）＝特定外来種、これらの整備＝草刈りから、という印象。サクラ類てんぐ巣病枝はもちろんだが、下草管理や、整枝剪定がしばらく行われていなかったため、一部の個体では樹勢が低下してきている印象。

葉のつきが悪く＝少なく、また葉の小さい枝が散見された。一部、シダレザクラと思われる個体も確認され、今後、サクラ樹を更新という方向で考えた場合、サクラ類てんぐ巣病に強いとされる「シダレザクラ」に更新してゆくのも良いのではないかと（小林氏）。

<調査概要>

No.	場所	位置	桜の種類	本数	推定樹齢	管理状況	病気の種類と発生状況	推奨される対処法	高所作業車の要不要	管理者
5	室原	室原橋南側上流	ソメイヨシノ シダレザクラ	9本 1本	60～70年	手つかずの状態 間隔があり広さもある	枝は枯れている てんぐ巣病が多い 穿孔褐斑病	枯れ枝を落とす 時間はかかるが回復の見込みあり	必要 15m以上	区長

<参考写真>



写真16 根元の草が生い茂っている



写真17 手入れはされていない状態で樹皮に苔類がある



写真18 雑草の整備が急務

No. 6 立野の隠れ桜

<調査結果>

2本のサクラ巨樹あり、いずれも立派な個体。枯れ枝の撤去、サクラ類てんぐ巣病枝除去～整枝剪定はいずれ必要。震災以降はあまり樹木の手入れをすることができなかった模様。高所作業車があれば、手入れはしやすいとのこと。

<調査概要>

No.	場所	位置	桜の種類	本数	推定樹齢	管理状況	病気の種類と発生状況	推奨される対処法	高所作業車の要不要	管理者
6	立野	立野関ノ倉 281-1	ソメイヨシノ	2本	60～70年	震災以降手つかず	てんぐ巣病 枯れ枝多い	作業があれば割と出来そう	必要 12～15m以上	地元の方 中野弘寿

<参考写真>



写真19 水神様を祀っている敷地内に2本の桜がある



写真20 てんぐ巣病が発生している



写真21 高所作業車があれば比較的に手入れはしやすい

<調査結果>

浪江は朝から「霧」が発生、天気予報でも濃霧注意報が出されていた。津島小学校到着時曇天、浪江の山側の地域では、この霧の影響を受け、サクラにも影響を与えているものと考えられ、樹皮に地衣類が付着しているものが多く確認された。一方で、てんぐ巢病は、みられるはみられるが、昨日のリバーラインのサクラに比べるとかなり少ない。

樹勢が弱くなっている印象が強く、小林氏によると、地衣類の影響も可能性があるが、グラウンド植栽ということが踏圧害及び貧栄養＝肥料不足になっているためではないかと。下草刈りから施肥で、樹勢回復は期待出来るのではとのこと。

最も樹勢が良い個体では、胴吹きの子枝からの新葉の展開が多くみられ、個体そのものの光合成能力による樹勢の回復も十分に可能性があるものと考えられた。

校舎体育館前には、樹齢50年程度と考えられるヤマザクラと思われる個体が確認された（植栽によるものか）。樹形が、野生種本来の良い形で維持されており、開花期は見事であることが予想された。グラウンド側のソメイヨシノを残してゆくことはもちろんであるが、このヤマザクラはソメイヨシノよりもはるかに長寿命であり人の手入れなしに維持出来るものと考えられるため、シンボル樹・象徴として大事に残していったらどうか。

<調査概要>

No.	場所	位置	桜の種類	本数	推定樹齢	管理状況	病気の種類と発生状況	推奨される対処法	高所作業車の要不要	管理者
7	津島小学校	下津島	ソメイヨシノ しだれ桜（八重紅） ソメイヨシノ ヤマザクラ	校庭15本 校庭2本 学校周18本 1本	20～60年	状態は良くない 地衣類がついている 手入れは元々入っている	少してんぐ巢病があるが、少ない方	光があたり葉が多い 枯れ枝を落として 肥料を与えると元気になる 手入れしやすい	必要 10m	浪江町

<参考写真>



写真22 令和5年度に絆さくらの会により手入れが行われた



写真24 地衣類に覆われたソメイヨシノ



写真25 ツタが絡んだソメイヨシノ



写真23 根元の草の整備が必要

<参考写真>



写真26 最も樹勢が良い個体



写真27 植樹間隔が狭く枝の成長が制限されている



写真28 力強く生育するヤマザクラ

<調査結果>

グラウンドの「フェンス」沿いの植生個体が多く、このままでは、管理が容易ではない印象。いずれの個体も、現状態は芳しいとは言えないものの、今後の管理で、樹勢回復に向けてゆけるものと考えられた。桜の管理については、昨年度浪江町の方で行っている。フェンスがあるため、フェンスの外側から高所作業車等によるアプローチが必要である。

<調査概要>

No.	場所	位置	桜の種類	本数	推定樹齢	管理状況	病気の種類と発生状況	推奨される対処法	高所作業車の要不要	管理者
8	津島中学校	下津島	ソメイヨシノ 雑種	33本 2本	60年	枯れている 手が付けられていない 葉の付きが悪い 折れたり切れたところから菌が入っている	てんぐ巣病 苔類	根元の草から整理が必要	必要 15m以上	浪江町

<参考写真>



写真29 植樹間隔が狭くツタが絡んだソメイヨシノ



写真31 フェンスの網が食い込んだ枝



写真30 フェンスの網目から延びる枝



写真32 てんぐ巣病が発生している枝



写真33 ツタが絡んだソメイヨシノ



写真34 津島中学校外観



写真36 フェンス越しに植樹されているため、手入れには工夫が必要



写真35 樹木間隔が狭い



写真37 整備にはフェンスの反対側からのアプローチが必要

<調査結果>

シダレザクラが中心の構成となっている。
ツタやクズなどの蔓植物のまきつきが多く、また樹本体の樹勢がかなり落ちている印象。
津島と同様に、樹皮に地衣類の付着が確認された。
町を見下ろす東側（？）方面のシダレザクラ達の樹勢回復には、時間を要するものと考えられたが、反対側に同じくシダレザクラの新たな植樹が行われていたため、今後は新たに植樹された方のシダレザクラの育成管理を主としてはどうか。

<調査概要>

No.	場所	位置	桜の種類	本数	推定樹齢	管理状況	病気の種類と発生状況	推奨される対処法	高所作業車の要不要	管理者
9	丈六公園	高原丈六	ソメイヨシノ シダレザクラ	9本 18本	植樹後数年～50年	ツタが巻き付いている状態 地衣類がありキノコが生えている	枯れ気味 なんとか生きている 主に後ろ側が生きている	ツタを切る必要あり 日陰を取り除く キノコを採って消毒	不要	浪江町



写真38 樹木にツタが多く絡まっている



写真40 ツタが多く枯れている状況



写真39 樹木にキノコや枯れ枝が目立つ



写真41 近年植樹されたものは元気に育っている

<調査結果>

平成18年植栽で樹齢20年程度のサクラ並木。半谷氏の説明によるところでは、ソメイヨシノ中心とのこと。小林氏は八重桜系ではないかと。今回の視察のみでは判断難しい。一本のみ十月ザクラ、半谷氏によると四季ザクラあり。

通常のサクラ開花期＝4月と全く異なった時期＝10月・秋～冬に開花するため、この地の特徴的なサクラ＝シンボルとして、今後活かしていったらどうか。

適宜管理が行われているようであり、今回視察中、樹の状態は最も良好であったといえる。

<調査概要>

No.	場所	位置	桜の種類	本数	推定樹齢	管理状況	病気の種類と発生状況	推奨される対処法	高所作業車の要不要	管理者
9	大堀	大堀37 大堀陶芸の杜	ソメイヨシノ ベニフササクラ シケサクラ	22本 70本 3本?	20年	枝の整理が必要 ツタが巻き付いている 平成18年からの植樹	てんぐ巣病	ツタを切る	必要 10m	大堀相馬 焼協同組合 半谷秀辰



写真42 敷地内の桜の数が多い



写真44 ツタも多く、下草の整備が必要



写真43 下草が多く、震災以降手入れがあまりされていない



写真45 駐車場近辺は間隔は広い

No.11 立野中多目的集会所

<調査結果>

立野の隠れ桜を管理している、中野氏からの紹介で現場を視察した。
樹齢80年以上と推定される大木があるが、樹皮が剥がれていることから、処置が必要である。
土壌も土を入替えることで、樹木の回復の見込みは高い。高所作業車が必要。

<調査概要>

No.	場所	位置	桜の種類	本数	推定樹齢	管理状況	病気の種類と発生状況	推奨される対処法	高所作業車の要不要	管理者
11	立野	立野中多目的集会所	ソメイヨシノ	4本	80年	枯れている 苔類が多い 土壌改良が必要な状態	てんぐ巣病 苔類 樹皮剥がれ	根元の土の入替え 幹は泥を塗って包帯を巻く 回復の見込みあり 仕立て直しが必要	必要 15m	区長

No.11 立野中多目的集会所



写真46 立野中多目的集会所



写真48 樹木はかなり古く土の入れ替えが必要



写真47 樹齢はどれも数十年を経過しているものと見受けられる



写真49 樹皮が剥がれており処置が必要